



—カメラアは、ツバキ科の植物の総称です。呉市民の花はつばきであり、本校校歌の歌詞にも含まれています。—

この子に必要な支援は何か—それを考えようとしたときに、教職員間や保護者との間で、感覚のズレが生じることがあります。それぞれの立場や個々の感覚だけで対応したり、その子と関わる大人が異なる関わり方をしたりすることで、結果としてうまくいかないケースがあります。

学校では、“学校という場で、どう支援していくか”について、校内で協議を重ね、取り組まれているかと思います。しかし、教職員がよかれと思って取り組んだことでも、保護者等の理解が得られなければ、決していい結果にはなりません。また、学校としてどのような支援をしようとしているのかがきちんと伝わっていない場合、保護者が不安に感じるケースもあります。

子どもの実態をどう捉えるか—ケース会議や支援会議を通して、保護者や関係者と一緒に考え、子どもの実態に応じた支援について検討することが大切です。

## 支援会議を企画しよう☆

○支援会議は、支援を必要とする児童生徒が安心して学校生活を送ることができるように、関係者が情報を共有し、よりよい支援ができるようにするものです。

校内の教職員で行う会議を「ケース会議」、教職員の他に保護者や関係機関が参加する会議を「支援会議」と呼ぶなど、学校により名称が異なるようです。

### ① 校内委員会の開催

保護者からの要望や困り感のある子どもの様子から、ケースを絞り込みます。



### ② 参加するメンバーや頻度・時間の決定

互いの負担を軽減させるためにも、短時間で効率のよい協議にしましょう。



### ③ 話し合いの手順

最初に、担任から学校の様子を報告した後、家庭などでの様子を話してもらいます。

- 1 学校での様子(担任から)
- 2 家庭での様子(保護者から)
- 3 ○○について
  - ・学校の取組
  - ・保護者の願い
  - ・支援の内容と方法



子どもの状態やトラブルが起きた時だけではなく、定期的にも開催することも大切です。また、課題だけでなく、うまくいった例を共有することで、より効果的な支援について検討することができるのではないかと考えます。



参考:佐藤 暁(2008年):『特別支援教育コーディネーターの手引き—特別な支援が必要な子どもたちへ4』東洋館出版社

## 関係機関(担当者)の御紹介

今年度、本校の支援会議に参加して下さっている関係機関の方々を御紹介します。

本校では、支援会議でいただいたアドバイスを基に、「学校でできることは何か」具体的な手立てを検討し、日々の教育活動を行っています。

### 海田町ひきこもり相談支援センター

相談支援員〔看護師〕 富士本さん

「海田町ひきこもり相談支援センターとは、海田町内にお住いの方を対象とした相談機関です。ひきこもりの方や家族からの相談も受けており、相談内容に応じて他の適切な関係機関につながるよう、お手伝いしています。」



### 自立訓練(生活訓練)事業所 LARGO

管理者 チーフ〔作業療法士〕 島本さん

「生活訓練とは、心身に何らかの障害を抱えた方に対し、生活の中で感じる難しさへのサポートを行います。その方にとっての自立を目指し、復職、就職、生きがいなど満足感・充実感が持てるように支援しています。」



### 医療法人正雄会呉みどりヶ丘病院

公認心理師〔臨床心理士〕 神崎さん

「本病院には、児童思春期外来と成人発達外来があり、幼児から成人の方を対象としています。主な相談内容としては、発達症、うつや不安・不登校や引きこもり・行動や行為の問題などがあります。」

医師の診察(診断書や服薬)、地域や学校との連携(支援会議等)、心理検査やカウンセリング、訪問看護など、本人や家族のニーズに合わせて診療しています。」



### 株式会社ハッピー・シード2号店

管理者 児童発達支援管理責任者〔介護福祉士〕 上林さん

「呉市焼山にある児童発達支援と放課後等デイサービスの多機能型事業所です。一人一人に合わせた、オーダーメイドの療育やコミュニケーション能力(特に伝える力)を養うことを大切にしています。対象児童生徒の事業所での様子をお伝えするとともに、本人の特性から“こんな場面ではこんなことに困るかもしれないから、このような配慮をしています”など、事業所で行っている支援についてお伝えしています。」



### 広島県立呉特別支援学校

担当者:専任教育相談主任(特別支援教育コーディネーター) 平川 真衣

住所:呉市焼山北三丁目 22-1

TEL: (0823) 33-0300 FAX: (0823) 33-0308

